

# 令和6年度 白川郷学園 理科研究構想

## 研究主題

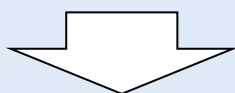
### 学びのひとりだちを目指す授業の創造

#### 理科で願う子どもの姿

自然の事物・現象に進んで関わることで、理科の見方・考え方を働かせ、疑問をもとに見通しをもって観察、実験を行い、事実をもとに既習事項と関連付けて主体的に問題解決していく姿。

#### 児童・生徒の実態

- 自然の事物・現象に興味・関心をもち、疑問をもって主体的に学習することができている。
- 日常生活との関連について考え、例を挙げて見通しをもつことができている。
- ▲ 観察、実験結果の分析、解釈から考察し、表現することに弱さが見られる。
- ▲ 自らの探究の過程を振り返る学習がされておらず、授業のつながりを意識できていない。



## 研究内容

### ○9年間の学び方の系統性のもと、学びのひとりだちを目指す授業の工夫

#### (1) 明確なめあてや課題意識をもてる導入

- ・興味・関心を高めるための身近な現象や資料の提示による導入の指導の工夫
- ・生活経験や既習事項を想起させ、予想や考察につなげる指導の工夫

#### (2) 課題解決の具体的な見通しをもち、多様な学び方で試行錯誤できる展開

- ・「比較」、「関連付け」、「条件制御」、「多面的に考える」といった考え方をもとに、問題解決の力(科学的に探究する力)の育成に向けた指導・支援の工夫
- ・十分な追究や観察、実験の方法の構想ができる環境づくり

#### (3) 自らの変容や学び方の自覚を促し、次の学びに生かす終末

- ・本時身に付けた学習内容を、日常生活や社会の中にある事象につなげる指導の工夫。
- ・自分の学びを振り返る活動の工夫。(学習支援アプリを使い、予想と考察の蓄積)

※(1)～(3)の手立てとしての白川村の地域素材の活用

※研究の土台としての基礎学力の定着を図る「みがき」の時間の充実